

津商工会議所創立120周年記念

川喜田半泥子 ゆかりの地

津



HANDEISHI KAWAKITA

その生涯を津市で過ごした陶芸家、実業家、政治家であり「東の魯山人、西の半泥子」と称され、当会議所の初代会頭川喜田四郎兵衛と係わり深い川喜田半泥子の作品や半泥子が開いた廣永窯の作品を通じて津市の観光等を紹介します。

■主な展示内容

- ・石水博物館「川喜田半泥子」ミニ展覧会
- ・半泥子廣永窯 作品展示
- ・津市観光紹介

2014年

1月30日[木]
~2月2日[日]

1月30日(木) 13:00~20:00(入場19:30まで)
1月31日(金) 10:00~20:00(入場19:30まで)
2月 1日(土) 10:00~20:00(入場19:30まで)
2月 2日(日) 10:00~16:00

■場 所: 三重テラス2階多目的ホール

■入場料: 無料



東京都中央区日本橋室町2丁目4番1号
浮世小路千足屋ビル「YUITO ANNEX」1・2階

- 東京メトロ半蔵門線・銀座線「三越前」駅直結
- JR総武線快速「新日本橋」駅直結
- JR山手線・中央線・京浜東北線「神田駅」より徒歩5分

津商工会議所創立120周年記念

「川喜田半泥子ゆかりの地“津”」

津市は長い歴史と伝統を有し、多くの名所旧跡や偉人を輩出しています。

商工会議所の役割は、地域産業や経済の発展のみならず、文化の発信も重要な社会貢献活動であるとしてとらえています。

当会議所は創立120周年記念事業の一環として、陶芸家・実業家・政治家であり「東の魯山人・西の半泥子」「昭和の光悦」と

称され、また当会議所の初代会頭である川喜田四郎兵衛の教育を受け、その長女と結婚するなど、会議所との関係深い川喜田半泥子を紹介し、その生涯をすごした津市の「観光」「文化」など魅力の発信により観光誘客や市産品の販路拡大等に繋がってまいります。

石水博物館 SEKISUI MUSEUM



割高台茶碗 銘「浮寝鳥」



片身替茶碗 銘「布袋和尚」

石水博物館は、川喜田久太夫(号:半泥子)が昭和5年に地域文化の振興と社会福祉活動の拠点として三重県津市に設立した財団法人石水会館を母体としています。昭和50年に登録博物館となつてからは津市丸之内の展示施設で地元根ざした展覧会を開催し、市民の皆様に親しまれてきました。平成22年に法人名を公益財団法人石水博物館に変更するとともに、半泥子ゆかりの千歳山(津市垂水)に新

しい展示施設を新築し、平成23年5月移転開館いたしました。

石水博物館の所蔵品は、江戸時代に伊勢商人の豪商であった川喜田家の旧蔵資料を中心としています。その分野は茶道具、書画、洋画、古書典籍、錦絵、伊勢商人関係歴史資料など多岐にわたります。また、同家十六代当主であり陶芸家としても知られる川喜田半泥子の資料も多数保存管理しています。

今回のミニ展覧会では川喜田半泥子の作品8点を展示します。皆様に半泥子の魅力を少しでも感じていただければ幸いです。



千歳山の墓(ひき)図

公益財団法人 石水博物館

〒514-0821 三重県津市垂水3032番地18 TEL.059-227-5677 FAX.059-213-5789
<http://www.sekisui-museum.or.jp>

HANDEISHI HIRONAGAGAMA

半泥子廣永窯

廣永窯は、川喜田半泥子が弟子養成のために自邸津市千歳山の登り窯を、昭和21年現在の長谷山麓なる閑林池畔の静寂境に移したことはじまり、半泥子の遺弟坪島土平、その弟子藤村州二へと引き継がれました。

型にとらわれない自由な作風で人の心をつかんだ半泥子の精神そのままに、伝統的な日本陶器の良さに、新しい創意を加えた作品を、ひとつひとつ手づくりでつくっております。

ご来場の皆様方には、廣永窯でつくられた手づくり陶器の質感と風合いを楽しんでいただければと思います。



赤絵麒麟花文大皿



黒釉象嵌三多文
透かし水指



染付象嵌耳付香炉
(赤絵替蓋)

株式会社半泥子廣永窯

■本社・ギャラリー 〒514-0028 三重県津市東丸之内33番1号

TEL.059-221-7120 FAX.059-221-7122

■窯場 〒514-0071 三重県津市分部1770番地1 TEL/FAX.059-237-1723